

令和6年度
会津若松市
男女平等に関する作文コンクール
入選作品集



会津若松市

令和6年度 会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会 会長 木村 淳也

●小学生低学年の部

最優秀賞	すきな仕事をするために	川南小学校	三年	佐々木 彩乃	さん…1
優秀賞	私にしかできない事	行仁小学校	三年	小瀧 きお	さん…3
優秀賞	男女平等について考えたこと	行仁小学校	三年	新妻 瑛大	さん…5

●小学生高学年の部

最優秀賞	本当の男女平等とは	松長小学校	五年	小泉 糸都	さん…7
優秀賞	男女平等について	一箕小学校	四年	小原 陽葵	さん…9
優秀賞	あたり前ってなんだろう	荒舘小学校	四年	手代木 律	さん…11
優秀賞	大人も子供も知るべき事	鶴城小学校	六年	廣瀬 愛	さん…13

●中学生の部

最優秀賞	男女平等のために	一箕中学校	三年	塚田 陸斗	さん…15
優秀賞	家族の男女平等	第四中学校	二年	飯束 由希	さん…17
優秀賞	社会を持続的に発展させるために	会津学鳳中学校	一年	大野 愛奈	さん…19
優秀賞	一步を踏み出す勇氣	第五中学校	三年	佐藤 羽音	さん…21
優秀賞	男女平等の生き方とその人らしさ	第四中学校	一年	渡辺 蒼惟	さん…23

※同賞については氏名五十音順です。
 ※公表の承諾を得た作品を掲載しています。
 ※各作品の講評は、選考審査を行っていただきました会津若松市男女共同参画審議会委員の皆様によるものです。

令和6年度 会津若松市「男女平等に関する作文コンクール」の審査総評

審査委員長 会津若松市男女共同参画審議会

会長 木村 淳也

令和7年は、会津若松市が平成12年2月に県内で初めて「男女共同参画都市」を宣言してから25年を迎える記念すべき年です。本市では、「男女共同参画都市」の宣言に続き、平成16年4月には「会津若松市男女共同参画推進条例」を施行するなど、性別による固定観念にとらわれることなく、誰しもが「自分らしく」生きることができる「男女共同参画社会」の実現に向けた取り組みを進めてきました。男女平等に関する作文コンクールは、「男女共同参画社会」の実現に向けて策定された第6次会津若松市男女共同参画推進プランのコンセプトに基づき実施されています。

今年度の応募総数は、合計で639作品（小学生低学年11作品、小学生高学年48作品、中学生580作品）と過去に例をみないほど多くの応募がありました。特に中学生の部は、これまでで最も多くの応募となりました。

すべての作品に対する厳正な審査の結果、最優秀賞3作品（小学生低学年1作品、小学生高学年1作品、中学生1作品）、優秀賞9作品（小学生低学年2作品、小学生高学年3作品、中学生4作品）が選出されました。

作品は、家庭における家事や子育ての分担に関すること、日ごろ何気なく声を掛けられる「（男女）らしさ」に関すること、スポーツや職業における男女の異なりに関することなど、子どもたち一人ひとりが体験や学びから得たそれぞれの「気づき」を題材に男女平等についてよく考えまとめられていました。ほんとうにどの作品も素晴らしい作品ばかりでした。

作品の審査を通して、年齢や性別にかかわりなく、多様性を尊重する社会に向けた意識が多くの子どもたちの中に確実に育まれていること、そして男女共同参画社会へ向けて社会が着実に変化しつつあることを実感しました。

みなさんには、ぜひ、作文コンクールの経験を忘れず、誰しもが「自分らしく」生きることのできる社会の実現に向けて、一人ひとりがそれぞれの場所ですること丁寧に取り組み、毎日を大切に過ごしてほしいと思います。

優秀賞
最秀

すきな仕事をするために

川南小学校 三年 佐々木 彩乃

わたしの母はかんごしをしている。夜きんもしているの、夜いない時がある。わたしがようち園の年長のときには、半年間かな川県に、しかくをとりに行っていた。その時ようち園の先生に、

「お父さんが、子どもたちのお世話をしたり、家事をやっているんでしょう。すごいね。」

と言われた。わたしは、

「べつに、ふつうのことなんだけどな。」

と思ったことがあった。

わたしの父も毎日仕事に行く。仕事に行く前に、そうじきをかけたり、ゴミをあつめてすててくる。わたしがねた後は、せんたくをしてくれている。母が仕事でいない日は、しゆく題をみってくれたり、子ども四人をつれて公園で遊んでくれる。うちでは父と母は同じ分の家事をしているようにわたしは思う。

だから先生の言葉が少し変に感じた。

むかしの人は、男の人が外ではたらいてお金をかせぎ、女の人は家の家事や子そだてをやっていたと聞いたことがある。

「なんでお母さんははたらいているの。」
と母に聞いてみた。

「お母さんは小さいころから、かんごしになりたかったのよ。」

と母は言った。うちでは母が外ではたらいたり、夜きんをすることに、

「女なんだから、家にいなさい。」

と言う人はだれもない。母はやりたい仕事をやって、いそがしそうにしているけれど、楽しそうだ。

父もしかくをとるために、夜みんながねた後、べん強をしていることがある。しけんの前は、母が家事を多くやって父の家事をへらしている。二人はきよう力して家事をしているのだと思う。

わたしはしよう来、パンやさんになりたいと思っ

ている。パンやさんは朝早くから、パンを作るために、はたらかなくてはならない。わたしが朝早くから仕事をする、朝ごはんを作ったり、子どもの世話ができなくなる時もあるだろう。そんなときに、しよう来けっこんした人ときょう力して家事ができたらいいと思う。

「女だから夜はいなくてはいけない」とか、「男なのだから、夜おそくまで仕事をしなさい」とか、やりたいことをせいべつのためにがまんをしたり、あきらめたりしたくない。やりたい仕事を楽しんでできるように、こまった時は、ほかの家ぞくが助けてくれる、そんな社会になってほしいと思う。

わたしが今できること、それは仕事をしている父と母のかわりにお手つだいをすることだと思う。父と母がやりたい仕事をえ顔でできるように、家ぞくの一員として、きょう力していききたい。

講評

お父さんとお母さんが好きな仕事に就きながら協力し合って家事を分担し、お互いに楽しく実施している様子が私にとって性別に関係なく将来やりたい仕事の希望に繋がっている事が伝わってきました。パン屋さん楽しみにしています。

優秀賞

私にしかできない事

行仁小学校 三年 小瀧 きお

「ジャンヌ・ダルク」というフランスで活やくした女の子の本を読みました。ジャンヌは今から六百年以上前のフランスの女の子です。フランスとイギリスは百年近くの間せんそうをつづけていました。ジャンヌは十七才の時に、王様を助け、フランスをすくうために、かみの毛を短く切り、男の服そうをして、馬にまたがって、フランスのぐんたいのリーダーになってたたかいました。ジャンヌは、「私は女の子だけど、私にしかできないことがあるはず。」

と、たくさん男の人を引っぱってゆうかんにたたかってフランスはしょうりしました。ジャンヌは国のえいゆうになりました。

「女の人は男の人より体が小さかったり力が弱かったりするけど、女の子でもリーダーになって、たく

さんの男の人を引っぱってたたかったジャンヌはとてもかっこいい。」

と私は思いました。

でも、昔は女の人がリーダーになる事はできなくて、リーダーは男の人ばかりだったそうです。だからジャンヌは、かみの毛を切り、男の服そうをしてたたかったそうです。ジャンヌみたいな女の人はとてもめずらしかったそうです。今は、女の人がリーダーになって市長さんや社長さんになれます。東京都のリーダーは女の人です。アメリカのリーダーをえらぶせんきよは女の人が出ている事をニュースで知りました。でも、学校の校長先生は、男の人がほとんどだしいろいろな会社のリーダーは女の人より男の人が多いと思ったので調べました。今は女の人の方がリーダーになる事は少しずつふえているけど、男の人とくらべてまだまだ少ないそうです。会社のリーダーが百人いたら、そのうち女の人数は十三人くらいだそうです。女の人が少ない理由のひとつは

出産や子育てをしながらお仕事をする事が大変だからだそうです。昔はお父さんがお仕事をしてお母さんが家の中の事や子育てをするお家がほとんどだったそうです。今は、どちらもお仕事をしているお家が多く、赤ちゃんが生まれるとお父さんも育児きゆうかという長いお休みをもらえる会社が少しずつふえてきて、お父さんお母さんがいっしょに赤ちゃんのお世話ができるといふ事を知りました。私は、そういう会社がもっとふえたら男の人は赤ちゃんと一緒に過ごす時間がふえてうれしいし、お仕事がとくいな女の人はもっとお仕事がしやすくなって活やくできるのでどちらもうれしいと思いました。

男の人にしかできない事や女の人にしかできない事もあると思います。でも、ジャンヌ・ダルクみたいに性別を気にしないでそれぞれがとくいな事をもっとやりやすくなれば、男の人も女の人も、もっとたくさん活やくできると思います。私も性別を気にしないで私にしかできない事を見つけて、どんな事

にもチャレンジしていきたいと思います。

講評

しょうがつこう ねんせい だんじょびようどう
 小学校3年生で男女平等について、自分なりに
 しんけん かんが かんが
 真剣に考えていることがよくわかり感心しました。
 いま かんしゅう せいべつ じぶん とくい
 今までの慣習や性別にとらわれず、自分が得意と
 することとをどんどんやれる環境を整えることが
 だいじ かくじ しぜん い
 大事だということ、また各自が自然に生きやすく
 かつやく えんご い いし ひつよう かん
 活躍できることを選んで生きる意志が必要だと感じ
 ていることがよくわかります。
 すなお い ほ おも
 このまま素直に生きていって欲しいと思います。

優秀賞

男女平等について考えたこと

行仁小学校 三年 新妻 瑛大

これまで男女平等という言葉聞いたことはあるけれど、くわしい意味が分からなかったので、始めに国語辞典で調べてみました。そうしたら、「男性も女性も平等のけんりを持つこと」と書いてありました。さらに、「けんりという言葉調べてみると」「自分の考えで自由にすることができる資格」と書いてありました。それと、前にSDGsの本を読んだ時に、「ジェンダー平等を実現しよう」という目標があったことを思い出しました。これまでの社会では、女性であるというだけで、差べつを受けることや、社会の中で活やくするきかいが少なくなることが問題になってきたことを知りました。

特に、日本は世界の国に比べると健康と教育では、格差は少ないけれど、政治や経済では男女の格差が大きいそうです。

学校生活で考えてみるとクラスには色々なかけがあるけれど、男女にかんけいなく、それぞれくいなかかりや、やってみたいかかりの仕事をしています。きゆう食の時も当番が早くおいしく食べられるようにじゅんびをしています。今年の運動会では、男女いっしょのチームで走るボール運びリレーのしゅ目があり、みんなで走ったけっかかつことができました。このように、学校生活では、男女が協力していて差別はないと思います。

でも、前に友だちどうしがけんかをしているのを見て、泣いている男の友だちに

「男なんだから泣くな。」

と言ってしまったのを思い出しました。男だからときめつけることも平等ではないので、

「大丈夫だった。」

と、声をかけていればよかったと思います。

それから、ぼくの家では父も母も仕事をしています。食事は、いつも母が作るけれどあとかたづけは

家ぞくみんなです。また、母の帰りがおそ
い時は、父が食事を作ります。ぼくもお
ふろそうじや、ごみ出しの仕事をたんとしていま
す。

これからの生活の中で、知らないうちに男だから、
女だからと差別してしまうことがあるかもしれませ
ん。そんな時は、一度立ち止まって今の言葉や行動
が正しかったか考えるようにします。それと、差別
をなくすためにだれとでも協力する気持ちを大切に
したいと思います。

そして、ぼくが大人になるころには、男女差別の
ない国になっていて、みんなが自分の考えで自分の
好きなことにしようせんができるような平等で明る
い社会になっているとうれしいです。

講評

男女平等という言葉について、辞書で調べたり、
今まで読んだことのある本とつなげて考えたり、知
らなかったことを、知ろうとする姿勢が素晴らしい
です。学校生活を振り返って気づいた、男女関係な
く得意なことを見つけ協力して活動すること、
一度立ち止まって自分の言葉や行動が正しかったか
考えることを大切にしてほしいと思います。

優賞
最秀

本当の男女平等とは

松長小学校 五年 小泉 糸都

わたしは今年の鼓笛パレードで、男の子の友だちと二人でシンバルを担当することになりました。学校には大きなシンバルと小さなシンバルがひとつずつしかないのです、どちらがどのシンバルにするのか、相談して決めることになりました。わたしは学年で一番身長が高いので、体の大きなわたしが、大きい方のシンバルを持つことになりました。

しかし次の日、その友だちからこんなことを言われました。

「お父さんに『お前は男なんだから、大きい方のシンバルをやれ』と言われたんだ。」

わたしはこの話を聞いたとき、何か変な気持ちになりました。なぜ、男の子だから大きい方をやらなければいけないのか。例えば、ふつうに持てる重さのものを女の人が運んでいるとき、男の人が代わり

に持ってくれる場面をよく見かけます。そんなときわたしは、女の人が少しからかわれているような気持ちになります。たしかに、男の人の方が力は強いし、重いものを持ったりすることも得意かもしれません。でもだからといって、自分で持てるものまで持つてもらうことは、「女だから弱い」と決めつけられてしまっている気がします。わたしだったら自分で持てるものは自分で持ちたいし、それができないときや助けてほしいときは、男女関係なく手伝ってもらいたいのです。友だちの話で感じた変な気持ちは、きっとこれと同じで、最初から「女の子には大変だ」と思われているような気がしたから感じたのだと思います。

大きい方のシンバルは重くてずっと持っているのは大変です。けれど、わたしができないわけではありません。だから、わたしは友だちに、「わたしの方が体が大きいから、シンバルはそのまま大きい方をやるね。」

と言いました。そして、最初に決めたとおりの分担になりました。

友だちのお父さんの発言も、ものを持ってあげる男の人の例も、女の人を差別しようとしているわけではないと思います。もしかしたら、相手を思いやるやさしい気持ちからの発言や行動なのかもしれない。でも、そうだとすると、「女だから」という理由だけであつたら、それも男女差別になるのではないかと思います。人を思いやる気持ちは、「男だから」でも「女だから」でもなく、「目の前の相手を大切にしたい」という思いから生まれるものだと思うからです。

誰かを思いやったり、困っている人を助けたりするときに、性別のことは考えません。だから、例えやさしい気持ちであっても、性別を理由にすることは良いことではないと思います。男でも女でも、自分でできることは自分でやり、そしてお互いに協力

することが本当の男女平等だと思うので、そういう考えが当たり前になる社会になってほしいです。

講評

鼓笛パレードでの経験を通じて性別による固定観念に疑問を抱き、「女だから弱い」という決めつけに対して違和感を持った筆者の視点が丁寧に描かれています。目の前の相手を尊重する姿勢と、性別にとらわれない社会を目指す思いが力強く伝わります。

優秀賞

男女平等について

一箕小学校 四年 小原 陽葵

「女の子らしくしなさい。」

私は、優しいおばあちゃんが大好きです。でも、おばあちゃんから、そう言われることがよくあります。

私は、それがどういう意味なのか、時々考えます。

おばあちゃんは「女の子はおとなしく、かわいらしくしなければいけない」と言うけれど、私は元気に遊んだり、冒険するのが好きです。

「女の子らしく」と言われるたびに、私は少しだけ悲しくなります。なぜなら、好きなことをしているのに、それがまちがっているかのように感じてしまうからです。でも、私は気づきました。男の子も女の子も、自分が好きなことをしていいんだと。

男女平等というのは、男の子も女の子も、性別に関係なく同じように大切にされ、同じような権利や

チャンスがあるということです。つまり、私が元気に遊ぶことも、男の子が料理をすることも、どちらも大事ですばらしいことなのです。

おばあちゃんが「女の子らしく」と言うのは、昔の考え方に基づいているのかもしれませんが、昔は、女の子は家事をして、男の子は外で働くのが当たり前だと考えられていました。でも、今の時代では、みんなが自分のやりたいことを自由に選べるようになっていきます。私の友達には、女の子でもサッカーが好きな子もいれば、男の子でもお料理が得意な子もいます、それぞれが、自分の個性を大切にし、楽しんでいきます。

私は、自分が好きなことをすることで、もっと自分らしくいられると感じています。そして、男の子も女の子も、同じように大切にされるべきだと思います。例えば、学校での授業やスポーツの時間に、男の子だから料理が得意とか、女の子だからさいほうが上手という決めつけはありません。みんなが平

等にチャンスを持ち、それぞれの得意なことを伸ばしていくことが大切です。

私が思う男女平等は、お互いを尊重し合いそれぞれの違いや個性を認めることです。例えば、おばあちゃんが「女の子らしく」と言ったとき、「私は私らしくいたい」と伝えることができるようになりたいです。それは、おばあちゃんを傷つけるためではなく、自分の気持ちを大切にするためです。

私のように、性別にとらわれずに自分らしくいられる社会を作るためには、みんなが差別や偏見をなくす努力を続けることが必要です。例えば、スポーツや学校のリーダーを決めるときに、性別ではなく、その人のがんばりや能力を見て判断することが大切です。

私は、これから自分らしく、そして他の人の個性も大切にすることで、男女平等を進めていきたいと思っています。みんなが自分らしく生きられる世界を目指して、私はこれからもがんばります。

講評

受賞おめでとうございます。ある気付きから、自分が考えている社会について、周囲を良く観察して〇〇らしくではなく、個性を大事に性別に関係なく自分がやりたい事に取り組む姿勢が読む人の心にとても伝わる、すばらしい作文です。

優秀賞

あたり前ってなんだろう

荒館小学校 四年 手代木 律

私の親は、消防士です。火事があったら火を消したり、具合いの悪い人がいたら救急車で助けに行ったりするお仕事です。朝に出勤したら家に帰って来るのは次の日の朝です。一日中うちにいないけれど、皆を守るすごいお仕事だと思います。

親が消防士と言うと、皆がこう言います。

「りつちゃんのお父さんは消防士なんだね。」

なぜ、親は消防士としか言っていないのに、お父さんだけが消防士だと思われるのでしょうか。私の父さんは消防士ですが、お母さんも消防士なので、そう言われることが不思議でした。片方が仕事でない日は、もう片方が家のことを一人でしてくれます。それは、私にとっては小さい頃からあたり前のことでしたが、あたり前のことではなかったのでしょうか。

先日、あるイベントで遠足へ行きました。お昼にお弁当を食べる時に、スタッフの人に

「可愛いくておいしそうなお弁当、お母さんが作ってくれて良かったね。」

と言われました。お母さんはその日夜勤でいなかったの、お弁当を作ってくれたのはお父さんでした。友だちに聞いてみるとお母さんが作ってくれた人が多くて驚きました。その話をお母さんにすると、「ご飯を作るのもお掃除をするのも洗たくをするのもうちでは半分こでしているけど、家庭によっては半分こではないこともあるんだよ。家でもトイレ掃除や衣替え、庭の手入れはお母さんがしているけど、水槽の魚の世話やカブトムシの世話はお父さんがしているでしょう。順番でやったり、役割分担をして、誰かだけが大変ということがなければ、それでいいんだよ。お父さんだから、お母さんだからしなくてはいけないなんてことは、何もなくて、親だから、二人で協力し合ってお仕事も家のこともしているん

だよ。」と教えてもらいました。

私のお父さんは、ランニングが得意で毎朝私と弟を五時半に起こして一緒に走ってから仕事に行きます。ゲームも上手で、攻略法などを教えてくれます。私のお母さんは読書が好きで、むずかしい漢字の読み方を教えてくれたり、勉強を見てください。部屋が散らかっているのが嫌いで、片付け魔によくなっています。そして、二人そろって休みの日には、いろんな所へ遊びに連れて行ってくれます。

今回、改めてあたり前って何だろうと考えましたが、消防士が男性なのがあたり前なわけでも、お母さんがお弁当を作るのがあたり前なわけでも、うちみたいに半分こするのがあたり前なわけでもなくて、あたり前と思い込まずに、得意なことや、やれることをやれている人が協力し合って、皆が笑顔で過ごせるようにすることが大切だなと分かりました。これから、私もこどもだから、やらなくてあたり前ではなくやることを増やして行きたいと思います。

講評

性別に関係なく家事を役割分担する家庭に育った作者は、友人知人との会話の中で、あたり前に性別での役割分担があることを感じ取り、あたり前の認識に違和感を持つ描写が自然に活写され、母親の語り部分は特に秀逸でした。

優秀賞

大人も子供も知るべき事

鶴城小学校 六年 廣瀬 愛

みなさんは学校の中で男女の扱いについて不平等だなど感じたことはありませんか。

私は以前、学校の授業の中で感じた事がありました。それは、体育の授業の中での出来事です。その日はとても暑く、みんな早く室内に入ろうとしていました。しかし、マラソンで使ったコーンが置いてあったので私はそれを片付けようと思いました。ところが、ある体育の先生が

「男子はコーンを片付けなさい。女子は暑いから中に入りな。」

と言いました。男と女で体格差はあるけれど、コーンを運ぶことは女子にもできるのではないかと私は思いました。その授業の後に友達と話していると、友達が

「私達的には良かったけど、完全にひいきしている

よね。」

と言いました。その言葉にはわたしも同意してしまいました。その時私は、これが男女差別なのかもしれないと思いました。

私は、先生が男らしさや女らしさといった固定観念に捉われていることに驚き、ショックを受けました。私はこのようなことが社会で起きているのか知りたいと思い、本やインターネットで調べました。

驚いたことに、先生からだけではなく親からもこのような男女差別ととれる言葉をかけられたことがある人が多くいることがわかりました。私は、ジェンダー平等がこれほど浸透している現代社会でも男女差別が多くあり、固定観念に捉われている大人達によってこれらの考えを押し付けられているように感じました。また、これらの偏見や観念には「アンコシャス・バイアス」というものがあります。これは今までの経験などから無意識に偏見や固定観念をもってしまうことを指します。特に高齢者を含む大人

はこれまでの「男は仕事、女は家事」といった「性別役割分担意識」の固定化が強い日本社会で過ごしてきたために、無意識のうちに差別をしてしまっていることがあるかもしれません。

確かに、これからの社会をジェンダー平等にしていくためには、未来を担う若者が問題を知り、解決していくことは大切です。しかし、本当にこれらの問題を知る必要があるのは今までの固定観念に捉われ、男女格差を生んできた大人達ではないでしょうか。生きている人みんなが互いを尊重し合い、性別にとらわれない考えや社会づくりを心がけていくことがジェンダー平等な世界につながると思います。

講評

学校生活の中で感じた素直な気持ちをわかりやすく表現できていると思います。身近な体験を通して抱いた疑問に対し自ら調べ理解を深めながらまとめた自分の考えもはっきりと気持ちよく伝わってきました。

優賞
最秀

男女平等のために

一箕中学校 三年 塚田 陸斗

私達は無意識に男女差別をしていると気付いていない。男だから、女だからと、偏った考えで男女のレッテルを貼りつけあっていないだろうか。テレビ、本、新聞、ネットの世界、周囲の人々等、周りの環境が私達子供の無垢な心を男女不平等の思考に染めあげていく。男女平等ランキングで日本が下位グループから抜け出せないのは、男尊女卑の思考を潜在的に刷り込まれながら日々過ごしているからではないだろうか。

私がまだ幼かった頃、姉と一緒に転んで膝が血まみれになったことがある。痛くて泣いていたら、親戚の大人達に、

「男の子だから泣いては駄目。男の子が泣くのは情けない。」

と言われた。なぜ男の子は泣いては駄目なのだろう。

なぜ泣いてる女の姉には何も言わず男の私ばかりに厳しい言葉をかけるのだろうか。傷の痛さと心の痛さで涙が止まらなかった。その理不尽な言葉が抜けない棘のように、今でも私の心に突き刺さっている。今でも怪我をするたびに頭をよぎる。

先日、親戚の大人達に会った時、

「男の子は一家の大黒柱になるのだから、大学にて、良い会社に就職して家族を守らないとね。」

受験生の私に大人達は勝手に言う。今は女性の一家の大黒柱の人もいるし、男の主夫もいる。何気ない言葉。本人達は男女差別をしていると微塵とも思っていないのだろうか。しかし、呪いのように子供の私達の価値観に影響を与えていく。このようにして、ジェンダーバイアスの偏った思考が受け継がれていくのではないだろうか。

私が男の子だからと昔からの男らしさを押しつけられ嫌な思いをしたように、姉も女だからと色眼鏡で見られ嫌な思いをしたことがあるだろう。そして、

お互いこれからもあると思う。私は、男だから女だからと性別にとらわれずに、一人一人個人として人と認め合っていきたい。

男女は平等であり、不平等である。女性は出産ができ、男性は女性より力が強く、身体的には男女不平等だ。男女差別なのか男女区別なのか曖昧になってきていることが多く、あらゆる面で男女平等にしたら、平等が不平等を作り出してしまうと思う。パリ五輪の女子ボクシングで論争が起きたように、身体面での男女平等は難しいと思う。しかし、男女の違いを理解し、歩み寄り、自分の主張ばかりで相手を否定するのではなく、互いに思いやる優しい心に性別は関係なく男女平等だ。

男女不平等の問題は、人々の価値観の違いや無意識の偏見から、すぐに解決する問題ではない。男女平等のために自分は何ができるだろうか。性別を超えて、個人として認め合い自分らしく生きられるように、思いやりの心を忘れずに毎日過ごしていきたい

と思う。

講評

男女平等のために何ができるか。いつの間にか気配りと思いやりについて気がついてきたのかも知れません。これからは、思いやりを自分の責任において実行するいい機会かも知れません。

今は勇気が必要かも知れませんが、大人になれば当たり前になってきます。いつか自分も声をかけられることになるかも知れませんか。そう考えるといいでしょう。

優秀賞

家族の男女平等

第四中学校 二年 飯東 由希

私の父は、料理ができません。父が子供の頃、母親が危ないと言って、包丁を使わせてくれなかったそうです。でも、今は少しずつ母が作る料理の手伝いをしています。包丁は上手に使えないので、できることをしています。

私の弟は冷やし中華が大好きで、冬でも食べたいと言っています。この前、母が体調を崩してしまったときに、父が、頑張って野菜を切って、麺もゆでて、冷やし中華を作ってくれました。きゅうりの切り方が太かったけれど、弟は喜んで食べていました。他にも、洗濯物を干したり、お風呂掃除をしてくれたりして頑張っていると思います。

私は、家事を父と母が平等に負担することがいいと思っていました。でも、男女平等について調べてみると、違いました。

人には得意不得意や能力に違いがあり、単純に家事を分担する事が良い結果につながるものではないと知りました。私は、本当にその通りだと思いました。

家事が得意な男の人であれば、料理が苦手な女の人もたくさんいます。性別によるイメージではなく、その人が自分らしく幸せに生きていける社会が大切だ、と言われている理由がわかりました。

私の父は包丁を使わせてもらえなかったことで、今苦労していると思うので、私はこれからたくさんお手伝いをして、料理や家事をできるようになりたいと思っています。弟にも冷やし中華を作ってあげたり、弟も自分で好きな料理を作れるようになったら、大人になって楽だと思うので、できることは自分でやれるようになりたいです。私は、料理をするのは好きなので、いろいろな料理を作れるようになりたいです。

私は、男女平等について調べてみて、男だからや、

女だからという考えではなく、得意不得意や能力も考えた上で、バランスよく分けるのが平等だと思うようになりました。社会的なイメージや役割分担にとらわれず、一人ひとりの個性を大切にする社会になっていったらいいと思うし、それが私が大人になった時には、もう当たり前のことになっていてほしいです。

講評

家事の役割分担から、男女平等についてじっくり考え、「平等」のとらえ方が深まっていることが素晴らしいです。男女平等について考える中で気づいた、「社会的なイメージや役割分担にとらわれず、得意不得意や能力などの一人ひとりの個性を尊重する」という考え方をこれからも大切にしていってほしいと思います。

優秀賞

社会を持続的に発展させるために

会津学鳳中学校 一年 大野 愛奈

私は社会を持続的に発展させるには、何といても男女平等だと思っています。しかし、私は日本はまだ、真の男女平等にはなっていないと考えます。

例えば、私の通う中学校では、応援委員会という大会などに出場する生徒たちを応援する委員会があります。委員はほとんどが男子ですが、ゆいいつ一人だけ女子がいました。その人が応援する姿は男子にも負けないくらい堂々としてとてもカッコ良かったです。この姿を見たとき、私は「女子なのに堂々としていてすごいな」と思いました。私の友達も同じことを言っていました。私は「女子はおしとやか」「男子は活発」という偏見を持っていたからだっただけだと思います。私のクラスには、「女子なのに力が強い子」「男子なのに静かな子」など個性豊かな人がたくさんいます。そしてときどき、「〇〇なんだか

ら」と、もめあうこともあります。こういったばかり合いをなくすためには、「女子だから」「男子だから」という自分の偏見にとらわれず、人それぞれ好み、性格は違う、という意識を持つだけでなく、お互いに、考え方を見直すことも必要だと思います。

男女の違いを考えるうえで、男子にしかできないこと、女子にしかできないことはもちろんあると思います。例えば、重い物を持ったり遠くまで走りすることに关しては女子は男子にかないません。でも、どんなにがんばっても男子は赤ちゃんを産むことはできません。しかし、よく考えてみると、これらは全て男女の体のつくりの違いによるものです。言いかえると、男女それぞれの個性であるとも言えます。個性とはその人そのものであり、認めることはあってもけなすことはできません。つまり、男女の差は比べることに意味はなくその違いを個性として受け入れ、そのよさをどのように活かしていくかが大事だと私は考えます。

現在、少子高齢化が進み、日本の人口が減り続けている今、「男だから」「女だから」と言い合っているとはばからしくなってきたと思います。私たちにとって、よりよい社会をつくることができるのなら、トップが男だろうが女だろうがどちらでもかまわなはずで。それが社会を持続的に発展させるために目指すべき姿だと思います。

世界には女性の大統領や首相がいます。テレビに映る彼らはとてもカッコよく見えます。また、近年、男性の保育士や看護師、美容師も増えています。彼らも同じようにカッコよく見えます。性別による偏見にとらわれずに自分のやりたいことをしている人々は輝いています。これからずっと、たくさん人が輝けるようになり、日本が持続的に発展していく社会になっていけばいいなと思います。

講評

この作品は、「社会の持続的発展」Ⅱ「男女平等」という視点を提示し、男女差よりも「人として輝くこと」の重要性を教えてくれました。

優秀賞

一步を踏み出す勇氣

第五中学校 三年 佐藤 羽音

私は、中学生になったことを機に、今までの内気な自分の殻を破りたいと思うようになった。そこで学級委員長を務めるという目標を持った。そんな中、学級役員を決める日がやってきた。最初に学級委員長は男子、副委員長が女子との説明があった。私は、なぜ女子が委員長になれないのか疑問に感じながらも、委員長になることをすぐに諦めてしまった。その日、立候補できなかった自分にもどかしさや腹立たしさを感じながら帰宅した。他のクラスでは女子が委員長になっていたり、生徒会長を女子が務めていたりしていることを思い出した。

私は、男子が委員長という説明を聞いたときの自分の感情について向き合うことにした。あの時、勇氣を出して自分の考えや意思を伝え、行動を起こすことで何か変えられたのではないか。一言が言えな

かったことで自分の選択肢が狭まることはもったいないのではないか。自分が声をあげることで皆が納得するとは限らない。しかし、声をあげなければ何も変われるチャンスはない。違和感を感じながらも仕方ないと思ったのは、リーダーが男子、それを支えるのが女子の役目と自分の中で固定概念になっていたからだ。それが意図せず私の中で男女差別をしていることに気が付いた。これからは、性別にとらわれず、挑戦したいことは勇氣をもって自分らしく進んでいきたいと思った。

そこで、次は専門委員で委員長になると決意をして、立候補をした。念願がかない、新聞委員会委員長になることができた。立候補する前は緊張したが、勇氣を出してよかったと思う。

今年受験生である私は、約二十年前まで福島県内の普通高校は男子校、女子校がほとんどであったことを知った。女子高出身の母によると、男女共学化になると女子高は高校名も変わることから、伝統校

を守るために卒業生による反対活動があったそうだが、それでも男女が共に学び合い、それぞれの人格を尊重して成長していくことは男女平等意識の確立のうえでも極めて大切であることから進められたと知った。今では、学びについての男女平等は基本的な考えとして根付いているように思う。

誰もが個性や能力を生かして活躍できることが平等な世の中であると思う。昔ながらの男女の役割に縛られることなく、お互いに認め合い、尊重することで男女平等の社会に繋がっていくと考える。

私が大人になるころには、女性も責任ある役職につく割合が今よりも多くなっていることを心から願う。信念に基づいた一人一人の勇気ある行動が男女平等社会を実現するための一歩になるだろう。固定概念や誰かの言葉で自分の可能性をつぶしてしまうことのないように意志を貫いていく勇気を持ちたい。

講評

学級委員長を辞めた悔しさから、性別にとらわれず専門委員長に挑戦し、見事に実現。信念と行動力の貴重な一歩に、敬服しました。

優秀賞

男女平等の生き方とその人らしさ

第四中学校 一年 渡辺 蒼惟

男女平等を考えた時、私は男性の方が不平等ではないかと思った。水泳の授業の時、女性は水着で手足以外を隠せるのに、男性は上半身が見られてしまうためはずかしい人もいるのではないかと思った。

また、学校では女性が制服のスカートとズボンが選択できるのに、男性はズボンしか選択できない。社会では男女平等と聞かれるのに、そうしたささいなことでも子供のうちから男性と女性を分けられていると感じていた。男性だから、女性だからこうあるべきと線が引かれていると思っていた。

今回、男女平等について考えた時、これらの考えを母に話した。母は私の思いを蒼惟らしいと言った。なぜなら、私が幼い時イベントがあり、女性の格好をした男性に腕にペイントをしてもらった。その際、「お姉ちゃんも男？でもかわいい、似合う。」

と大声で言ったと聞かされた。私はもちろん覚えていない。その話を聞いて私は、はずかしいと感じたが母は、私のことをはずかしいと全く思わなかったと聞いた。母は私のことを偏見を持たず男性や女性とか関係なく、その人が似合うかどうかで伝えられたことを素晴らしいと感じたと言っていた。人が自分の思いのまま選択できることが男女平等ではないかと思った。

母とは男女平等と仕事についての話もした。私の母は看護師をしている。看護師は圧倒的に女性が多いそうだ。看護師は患者さんの体のケアや心のケアをしなければならないため、人が持つ繊細さや気遣いが求められる。また看護師は一度に複数のことを考えなければならず、脳の構造的に女性の方が得意分野なのではないかと知った。私の母の職場には男性看護師もいる。実際に会ったことがあるが、優しく、思い出すと一緒に話していて色々なことを同時に考えていたと思う。仕事においては、男性だけ

ら女性だからと分けるのではなく、その人の能力や強みをどう活かせるかが大切なのではないかと思っ
た。また母は人見知りも強みだと言った。人見知り
はない方がいいのではないかと思っただが、母は世
中の人見知りの人との距離の取り方が分からないと
言った。人見知りの患者さんと話す時とても難しい
と教えてくれた。元々人見知りであれば距離の取り
方に気づくことができるのだから、人見知りもある
意味個性であり強みになるのだと思った。

世の中の人が性別にかかわらずその人らしく生き
ていけるようになること、こうあるべきと決めつけ
に縛られず選択できること、またその考えを相手に
伝えられることが男女平等なのではないかと思った。

講評

日常の服装選択の不平等に着目し、男女平等を多
様性や個性の尊重から考察する独自の視点が魅力的
です。性別を超え、自分らしく生きる社会を温かく
提案する主張が丁寧に展開され、多くの共感を呼ぶ
内容です。

男女共同参画都市宣言

(市制百周年記念)

美しい自然と確かな歴史、豊かな文化に恵まれた会津若松市の市民として、誇りと自信を持ち、男女の平等を基本理念に、「男女共同参画都市」を宣言します。

1 わたしたちは 性別にとらわれず、ひとりひとりの人権が尊重され、個性と能力が生かせる会津若松市をめざします。

1 わたしたちは お互いを認めあい支え合って、あらゆる分野に男女が共同で参画でき、いきいきと暮らせる会津若松市をめざします。

1 わたしたちは 共に手を取りあい、かけがえのない地球の環境を守り、平和で豊かな会津若松市をめざします。

2000 年 2 月 27 日

会津若松市

市では、令和6年4月から令和11年3月を計画期間とする
「第6次会津若松市男女共同参画推進プラン」を策定し、
「性別にかかわらず、多様性を尊重し、一人ひとりが
その個性や能力を十分に発揮することができるまち」
を目指して、
市民の皆さんや事業者の方々とともに取組を進めています。

会津若松市
UDキャラクター
ゆにばくん



発 行 令和7年2月

会津若松市 企画政策部 企画調整課 協働・男女参画室

〒965-8601 会津若松市東栄町3番46号

TEL 0242-39-1405 FAX 0242-39-1400

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2019122600010/>



この作品集は市のホームページにも掲載しています。